

学校保健安全委員会だより

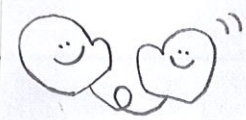
令和3年度
2月



2月2日(水)に学校医の多胡先生に参加していただき、学校保健安全委員会を開催しました。学校からは、春の健康診断・学校でのコロナ対策「新しい学校生活様式」・「にこにこ成名っ子カード」の結果を報告しました。



学校からの報告



健康診断結果より

裸眼・矯正視力ともに1.0未満の児童は、5・6年生に多い傾向にあることがわかりました。虫歯の罹患率は減少にありましたが、少しずつ増加してきています。その理由の1つとして、1人の虫歯の保有数が多いことや忙しくてなかなか病院に行くことができない等の理由が考えられます。多少コロナウイルスの影響で受診できていない可能性もあるかもしれません。治療の勧めの用紙は出しているのですが、虫歯の治療率は年々減少しつつあるため、再度保健だよりでもお知らせをしていきたいと思います。

学校でのコロナ対策「新しい学校生活様式」

学校では、新型コロナウイルス感染症を予防するため、「マスクの着用」「石けんでしっかり手洗い」「人との間」「かん気」「給食」の5つの約束を守って、学校生活を送るように心がけています。環境面でのコロナ対策として、各クラスにCO2モニターの配布、抗菌・抗ウイルスコーティング剤のコーティングを実施しています。毎日の検温チェックも検温チェックカードを活用して行っています。

にこにこ成名っ子カードより



時々、「眠い」「頭が痛い」と訴えてくる児童がいます。話を聞くと、夜遅くまで起きている場合が多く、中でも友達とオンラインゲームをしている人もいました。メディア時間が及ぼす体調不良としては、眼精疲労やブルーライトによる影響も心配されます。成名っ子カードでメディア時間を保護者の方と一緒に見直し、1日0時間と約束を決めてくださっているご家庭もあります。引き続き親子でルールづくりをしていただき、お家の方でもよく見てあげてください。

校医の多胡先生より

新型コロナウイルス感染症について



感染経路

飛沫感染が主体ですが、換気の悪い環境では咳やくしゃみがなくても感染すると考えられています。また、接触感染や無症状病原体保有者からの感染リスクもあるとされています。布マスクよりも「不織布マスク」の使用をすすめられています。オミクロン株飛沫感染を防ぐためには、不織布マスクが有効だそうです。

潜伏期間・感染可能期間

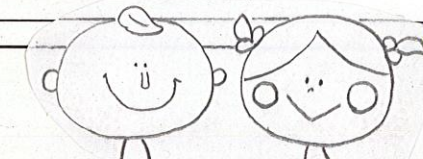
潜伏期間は1～14日間で、感染してから5日程度で発症することが多いです。
オミクロン株は3日ともいわれています。

検査について

「PCR検査」：新型コロナウイルスに今現在感染しているかどうかを判定できる検査方法。専用の機器や熟練した技術が必要なため、結果が出るのに数時間を要します。少量の遺伝子でも増幅することによって検出できるようにした感度が高い方法です。

「抗原検査」：新型コロナウイルス感染症の確定診断に用いることができる検査方法。しかし、PCR検査に比べると劣ります。簡便な検査キットが開発され、15分程度の短時間で判定できるメリットがあります。最近では、8分で判定できる検査キットも開発されました。

「抗体検査」：過去に感染したかどうか抗体があるかどうかを知ることができる検査方法。



5～11歳に対するワクチン接種

厚生労働省は5～11歳への新型コロナウイルスワクチンの接種について、早ければR4.3月から始める可能性を示唆しています。5～11歳向けのワクチンは、有効成分の量が従来のワクチンに比べて3分の1です。アメリカでは、接種後に感染した子どもたちは、症状が軽く済み深刻な副反応は起きなかったといわれています。しかし、わが子にワクチン接種をさせるべきか否か、悩む保護者は多いと思いますが、小児へのワクチン接種は有効だと考えられています。最終的には、親と子どもが十分納得したうえで決定することが大事になります。

感染症対策

- ①基本的な感染症対策(手洗い、咳エチケット、適切なマスクの着用、換気など)の徹底が重要。
- ②3つの密(密閉・密集・密接)を徹底的にさける、身体的距離を確保する。

迅速抗原検査キットの使用方法等についても実際に研修をしました。

今、日に日に国の方針が変わり、新しい見解が出されています。子どもを守るために、周りの大人が正しい情報を早く知り、対応していくことが大切と教えてくださいました。

